

## 独話的発話を用いた発話意図の表示の研究

——配慮表現の観点から——

櫻井和美（創価大学大学院生）

### 要 旨

先行研究において、「独話」は聞き手を想定しない発話として、発話機能の面から見れば対人的機能を持たないものに分類されてきた。しかし、日本語母語話者どうしの会話では、独話を用いた発話が聞き手に働きかける機能をもって発話されている場面がみられる。本稿では、形式上は独話であるにもかかわらず聞き手を意識して発話されたものを「独話的対人発話」と呼称し、形式上も意味上も聞き手に向けた発話や全く聞き手を意識しない発話のどちらとも異なるものとして機能していると仮定して考察した。それらの表現をポライトネス理論の観点から考察したところ、ポライトネスストラテジーとして機能していることがわかった。

キーワード：独話、対人発話、発話機能、ほのめかし、ポライトネスストラテジー

### 1. はじめに

独話は先行研究において「独り言・心内発話（またその音声化）」「スピーチ類の発話」と説明される。スピーチには聴衆が存在するものの、いずれも特定の聞き手を意識して発話されたものではない。つまり、聞き手に対して働きかける機能を持っていないと言いかえることもできる。しかし、日本語母語話者間の会話では、形式上は独話を取っているにもかかわらず聞き手への働きかけをもつものがみられる。

本稿においては、まず「対人的発話としての独話」およびそれにかかわる形式の発話に関する研究を概観し、辞書的な説明の「独話」との相違点を明らかにする。そのうえで、本稿における「独話的対人発話」の定義を提示する。

「独話」に関する研究全体を、ここでは3つに分類する。即ち、(1)終助詞の機能の一つとしての独話、(2)スピーチレベルシフトの中にみられる独話、(3)独話的形式でありながら聞き手を意識している発話に関する研究である。

そして、(2)、(3)を整理したうえで、これまで「独話」に位置づけられてきた言語形式の発話の中に、対人機能をもつ発話があることを先行研究からまとめ、総括的な分類を行い、配慮表現の観点から考察する。

### 2. 先行研究

「独話」という言葉が指すものには、①聞き手不在場面で発話されるもの、②聞き手不在場面と聞き手存在場面両方で発話可能な形式の発話、③聞き手を意識しているが、何らかの意図や目的をもってあえて独話的形式で発話されるもの、の3つに分類される。①は従来の「独話」の認識と重なるため、ここでは②、③の先行研究をまとめる。

## 2.1 聞き手存在場面でも発話可能な独話

聞き手への働きかけ性が強いとされる終助詞「よ」に、独り言用法があるとして中川・小野（1996）では次のような例文を上げ、「よ」の「独り言用法」とした。

(3)「あーあまた放浪だよ」（藤島 1989～1993）一巻 p.50

(4)「先輩もいい趣味してるよ」（藤島 1989～1993）一巻 p.114

さらに、中崎（2002）も同様に終助詞「ヨ」は独話にも用いられることを指摘し、話し手の心的態度を顕在化する発話に用いられる「ヨ」は独話性があると述べた。

(2)（アイドルの握手会場で）ああ、もうはじまっちゃってるよー。全然見えないよー。

この例話者が当該の事態を残念に思っている心的態度を表す表現で、聞き手の存在を必要としないが、対話場面にも用いられる。

(12)（A 首相に代わる首相として B 首相が選ばれた際）

C 議員：あー、また派閥抗争やってるよー、って思いましたもん。

## 2.2 スピーチレベルシフトに関する研究

対話場面における独話的形式の発話は、スピーチレベルシフトの研究にもみられる。主な研究としては、宇佐美（1993）、（1998）、Usami（2002）、三牧（1993）等が挙げられる。それらの研究の中で、本稿の研究対象と重なるのは敬体から常体へのスピーチレベルシフトである。

宇佐美（1995）では会話例として次のものが挙げられている。

北原：そちらは、長いんですか。(0)

河井：U.Mass ボストンで、あの、MA を取って、去年から、ここ。(一)

→北原：あ、そう。

宇佐美は、この発話の機能を①心内発話の音声化、②心的距離の短縮、③心的距離の短縮と談話展開標識の機能、④話者の心情をそのまま表す、⑤狭義の意味を超えた発話態度を表現する、と考察した。

## 2.3 独話的発話に関する研究

ここでは、先に挙げた先行研究のうち、心内発話（またその音声化）を独話と位置づけ聞き手存在場面で聞き手を意識して発話された発話がどのような対人的機能を持つかに言及したものを整理する。

三牧（2000）はテレビ番組の会話を収集し、そのデータから独話的発話のタイプを次の二つに分類した。

①思考過程を心に浮かんだまま音声化するタイプ

②FTA を相手に向けることを回避し FTA 補償戦略として自問形式を採用するタイプ

このうち②の FTA 補償戦略としての独話的発話の用法を、次のようにまとめている。

- ・相手に直接向けると FTA になる恐れのある内容を発話する場合、独話風に発話することで FTA を補償していると思われる用法

- ・思考過程の音声化に比べ、意識的に発話している
- ・相手への間接的な質問となる

具体的な例文は、次の表の通りである。

【例4】

(学年と年齢が合わない女性に対して、男性が)

NS 後方に大きくのけ反り、上を仰ぎながら あれ、若いなあ。何でやる。

NNS ふふふ。

NS 22?

この発話のNSにフォローアップインタビューし、得た回答からその機能を①FTA補償ストラテジー、②談話管理、③心的距離の接近であるとした。

さらに、池谷(2012)は、文末に「ッケ」「ット」を用いた表現の独話的用法を分析し、その機能を次のように結論付けた。

①聞き手をinvisible listenerとして扱うことで、聞き手はその発話に対して何らかのアクションを起こす義務から逃れられる。

②たまたま聞き手が協力的であれば話者と聞き手のインタラクションが生まれ、協調的な会話が生まれる。しかし非協力的な聞き手として無視していても、人間関係には影響しない。例文のように、大島優子が東京出身かを聞き手に尋ねるような質問、つまり聞き手に情報などを要求する発話は聞き手に答えを期待するが、独話的形式を用いれば、質問に対してどのような反応をするかが聞き手に委ねられ、FTAを緩和あるいは回避できるということである。

「ッケ」の形式を用いた独話的発話

聞き手有：同僚に芸能人について尋ねる

A:大島優子って、東京出身だっけ?

B:横浜じゃなかった?

聞き手無：その当時はこんな靴、履いてたっけ。

聞き手有：(友達のクラリネットを勝手に触っていたら、部品が取れてしまった。)

A:わあ。壊れちゃったよ。どうしよう?

B:知らないっと。

聞き手無：コンビニに行こうっと。

### 3. 先行研究の問題点

これらの先行研究では、形式上は独話であっても、聞き手を意識して発話されるものがあること、またそれらが配慮表現等のなんらかの聞き手に対する配慮や働きかけ機能をもつことが指摘されており、独話が従来の認識とは異なる機能を持つことを示している。

しかし、いずれも特定の表現形式や状況に沿った考察にとどまっており、幅広い「独話的発話」全体を配慮表現の観点から考察・議論したものは管見の知る限り存在しない。池谷(2012)などは配慮表現としての機能を指摘してはいるが、特定の発話形式の考察のみに留まる。宇佐美(1995)等をはじめとしたスピーチレベルシフトにみられる独話も、ある一定の場面・条件下の発話の考察のみであり、全体を概観するには不十分といえる。

また、独話形式の発話が対人発話に用いられ、独話とは異なる機能を持つことがわかって、それらの個別の形式をもつ表現がどのような対人的機能をもつか、それらが聞き手に対しどのように働きかけ何を要請するのかといった点については不明確である。そこで、本稿では独話的対人発話全体を概観するため、独話的対人発話の定義を明らかにし、該当するであろう表現をすべて分類した。さらに、それらが使用される場面や文脈などに沿って発話機能と配慮表現としてののはたらきを考察する。

#### 4. 本稿における独話的対人発話の定義

ここで改めて、本稿で考察対象とする「独話的対人発話」の例を挙げたい。

(1)車でヨーロッパを回っていて、道がわからず同じところを行き来してしまいなかなか目的地にたどり着けない場面。

鈴木 これ戻ってるよまた。

鈴木 ずっと運転させて申し訳ないけど、戻り運はこの人についてると思うよ。

大泉 ダメディレクターと旅したくねえなあ。

鈴木 ブリュッセルって書いてある。

藤村 いや、出口ねえんだよ。 (水曜)

この「ダメディレクターと旅したくねえなあ」という発話は、聞き手が存在しない場面でも発話可能であり、形式のみをみると独話である。しかし、聞き手存在場面で発話されており、この場面に即してみると不満表明と受け取ることができる。こういった発話はB&Lのポライトネストラテジー「ほのめかし」に該当する。つまり、対人発話でありながらあえて独話的形式をとって発話されている形式の発話ということができる。

独話的発話は先行研究でも考察されているが、本稿では対人場面で発話される独話形式の発話を次のように条件付け、網羅的に分類・考察する。

##### 独話的発話の条件

- ①終助詞・副詞・形容詞（形容動詞）語幹・動詞・名詞を用いた発話のうち、相手から目線を外す、前後の発話と声の大小が変わる等、話者の発話態度から独話とみなされうるもの
- ①のうち、聞き手が存在する場面で発話され、形式上は独話であっても発話内容から聞き手を意識しているということが判断されるもの
- ③下降調イントネーションを伴うもの（文字表記上は終助詞の後に「あ」が付加する）（＝上昇イントネーションを除外する）

#### 5. 研究方法

先行研究の問題点を受けて、本稿では独話的形式をもつ対人発話を発話機能の観点から総括的に分類し、配慮表現としての機能を考察する。

網羅的な考察のため、データ収集にアンケート調査、テレビ番組の会話、会話コーパスを用いる。テレビ番組の選別基準は、①原稿がない（と設定・公言されている）番組、②

スタジオの中でゲストと司会が話すのにとどまらず、その場で物を紹介したりスタジオ外で移動したりなど聞き手と話し手以外の事象や事物について言及する場面がみられるもの、③会話参加者が若年層に偏りすぎていないもの、の3点を設定した。

テレビ番組を用いる理由としては、視線、イントネーション、会話の前後関係、会話参加者の親疎関係や社会的距離などを把握するためである。また、より自然な(=聞き手を意識しすぎない)会話を収集するために、会話コーパスも補足的に用いることとする。

これらの条件に従い収集したデータを、便宜上言語形式別に分類し、その発話機能を場面、親疎関係、前後の文脈から考察する。

## 6. 分類

以上の条件に沿って収集したデータを、発話形式を基準にまとめ、それぞれの対人的機能を整理する。

### 6.1. 自己確認型

#### I. グループ A: 終助詞カ系 (か、かあ、かなあ)

このグループは、命題内容に対する話者自身の疑い・疑問を述べ立てる形式であり、話者は知り得ない情報について自問形式で述べることで間接的な情報要求として機能する。

(2) (番組の内容に関して説明を受けた後、撮影に向かう場面。三村は誰が収録に来るのか知らされておらず、前回収録時にいたメンバーが今回もいるのかを知るために、アナウンサーに背を向けた状況で発話している)

三村 大江居んのかなあ。

アナウンサー (無言で移動する)

三村 あ、大江いるかどうかも答えない。

(一同笑う)

(モヤモヤ)

この例は、三村の「あ、大江がいるかどうかも答えない」という発話から、「大江居んのかなあ」という発話が質問だったことがわかる。この形式での質問は、聞き手が疑問に答えるかどうかは聞き手に委ねられ、さらに、視線が合っていない状況のため、直接問いかけるより問いかけ性は弱い。聞き手が質問に答えず無視する、あるいは情報を与えないという対応をしても、疑問詞を用いた問いかけと比較して対人関係に大きな支障はないのである。しかしこれが、視線があっている場面や上昇調イントネーションを伴う問いかけであった場合、問いかけ性が強まり、無視をすると人間関係に支障をきたす可能性が拡大する。

(2) (アナウンサーと目を合わせて)

三村 大江居るの？

アナウンサー (質問に答えず無言で移動する)

この会話では明らかに質問を無視したこととなり、コミュニケーションの流れを阻むうえ人間関係に支障をきたす。つまり、独話形式での「質問」は、聞き手に対する情報の要請が持つ「要求」的性格を和らげており、答えるか否かの判断を聞き手に委ねているという点で、聞き手のフェイスを脅かすことを軽減するための配慮表現として機能していると言えることができる。

## 6.2. 意志表明型

このタイプの独話的対人場面は、話者の意志を独話形式で表明することで、命題に関する聞き手の行動を制限する、あるいは話者の意志を行動に移すための許可を得ようとする表現である。

(3) 友達の部屋で興味深い置物を見つけて、置物を手に取りながら

A 見せてもらお。

B 慎重に扱ってね。

(会話記録)

この例は親しい間柄で間接的に許可を求める会話だが、AはBの許可を必要としていないようにも見える。これは、①《許可要求》という聞き手への要求行為を行いながら、《許可》を行うプロセスを行うかどうかは聞き手に委ねている、②親密な関係であれば、聞き手と話し手の近接化を図るコミュニケーションネスストラテジーとして機能する、と解釈することができる。

意向形での発話であること、許可を得る内容が聞き手に対し損害がないといったような状況、「見せてもらってもいい？」と直接尋ねる形式でないことから、親しい間柄の中で距離の近接化をはかりながら、一方で依頼形式を避けるネガティブポライトネスストラテジーと解釈することも可能である。

(4) 大学内で夜遅くまで話していて

A よし、そろそろ帰ろう。

B 私はもうちょっと残るかな。

(会話記録)

この例では、会話を打ち切って帰りたいという要求を、「帰ろう」という話者自身の意志を表明することで間接的に聞き手に伝える。A、Bともに聞き手に許可を求めない、つまり、(5)と同様に許可を求める／許可するなどのFTAとなりうるリスクを追わずにお互いの領域に踏み込まず目的を達成できる。

## 6.3. 願望表出型

このタイプは、話し手の願望を独話形式で表出することで、聞き手の勧誘、許可を促す(要求する)表現である。

A: 動詞活用(たい) + 終助詞な

(5) 日本にばかりいると息が詰まるな。そろそろ海外旅行に行きたいなあ。(作例)

この発話は、話者自身の願望(心内発話)を表出した形式をとることで、聞き手はそれを勧誘(一緒に行きたい)とも依頼(連れて行ってほしい)ともただの願望表出とも受け取ることができる。

B: 願望表現 てほしい、てもらいたい等 + たら(なあ)

(6) (お酒にあう食事が出てきて、スタッフの方を見ながら)

マツコ: ビールがあったらなあ。

(マツコの知らない世界)

この発話も同様に、願望表出の形をとることで、要求表現を用いずに話者の要求を聞き手に伝えるというはたらきをしており、聞き手に対して間接的に要求をするという働きかけを期待したものとして機能している。

#### 6.4. 評価型

このタイプは、可愛い、汚い、面白いなどの話者の主観的な価値を表す形容詞類語幹（＋終助詞）で発話される。

(7)うわー、先生かわいい！

(8)先生の授業面白いなー。

他者を評価することは社会的距離、親疎関係などにより FTA となる場合がある。しかし、独話形式で発話することで、話者自身の率直な心的発話の音声化とみなされ間接的評価を行うことができる。

日本語では、目上の相手に対する評価は様々な制約を受けるが、独り言のように発話し聞き手に聞かせることで、賞賛を目的とした他者の評価を行う際の制約を受けにくくなる。

#### 6.5. 感情表出型

A:話者の感覚・情意を表す形容詞類語幹（嬉しい、楽しい、悲しい、悔しい等）

話者の感覚・情意の心内発話をそのまま表出することで、感情を明確に伝えることができ、ポジティブポライトネスストラテジーとして機能している。

B:驚き、意外性、納得など命題に対する話者のとらえ方を表す副詞群（なるほど、たしかに、そうか、まさか、やはり）

目上の人間の話に対して発することで、聞き手の話に対する共感、理解、納得などの発話態度を、FTA を回避したまま直接的に伝えることができる表現である。

これらの表現は終助詞などを伴わないことも多い。

#### 6.6. 陳述型

A:現象描写

(a)「あれ」「あ」などの間投詞を伴い眼前の状況を描写する

(9)あれ、誰もいないのにエアコンついたままになってる。

(b)「のだ」を用いた状況描写。副詞を伴い話者の感動を表すこともある。

(10)そんなに食べるんだ。

話者の目の前の状況または状況を作り出した聞き手に対する不満表明、驚きなどの感情を表すことができる。(a)の場合、終助詞を用いず独話形式で発話することで、たとえ聞き手が不満表明を聞き流し（無視し）ても対人関係に大きな影響はない。

B:問い返し・問いかけ

(11)A:ねえ、夏休み韓国旅行行こうよ。

B:韓国かあ…。

この場合、B の発話のパラ言語的要素により意味合いが変わるが、とりわけ非賛同の場合はその意図を聞き手の推測に委ねるため、A と同様に対人関係上大きな支障は生じない。

C: (a)状態の変化の結果を表す副詞群（仁田,2002）かちんかちん、がりがり等）

(b)事物の様子、現象を表す擬態語（べたべた、すべすべ、もちもち等）

## 6.7. 分類のまとめ

上記で分類した発話を、形式・機能別に分類し、名称をつけると次の表のようにまとめられる。

〔表1〕独話的対人発話の分類

名称	文法的形式	間接的機能	例
I 自己確認型	終助詞など自問形式の発話	聞き手に対する情報・行為要求	明日何着ようかな《助言要求》
II 意志表明型	動詞意向形（+と、ぞ等）	許可要求、意志表明、承認要求など	見せてもらお《許可要求》
III 願望表出型	動詞たい形（+終助詞）、仮定形+終助詞	勧誘、意志表明、許可要求など	いろいろ終わったら飲みに行きたいな《勧誘》
IV 評価型	終助詞、副詞など	想定された聞き手に対する評価	（聞き手に）すごいなあ。《賞賛》
V 感情表出型	形容詞、副詞、終助詞など	事象や第三者に対する評価	渋滞すごいな。《感情表出》
VI 陳述型	名詞、動詞（+終助詞）	事態や状況描写、他者の発話内容繰り返しによる行為要求	電気ついたままじゃん《不満表明》

## 7. 考察

これまでの考察から、先行研究では特定の形式のみに焦点が当てられた独話的発話は、実際は形式に関係なく多彩な表現による独話的発話があることがわかった。さらに、思考過程の音声化だけでなく、FTAを回避するためのストラテジーとして独話的発話が用いられていると言えるものがみられた。

大きく分けると、聞き手に対する発話を「ほのめかす」ための独話＝ネガティブポライトネスストラテジーと、聞き手との距離の近接をはかり発話内容をより生き生きと伝えるための「独話」の二種類があることがわかった。

また、独話的発話による納得・評価は、聞き手に対する賛同の意や聞き手に対する評価を普通体で示すことでより感情豊かに話者の意図を表現することができる。

目下の人間から目上の人間に向けた納得・肯定的評価は、より生き生きと感情を表現し納得・賞賛の意を伝えようとする表現となり、FTAを回避したうえで話者の発話態度や肯定的評価を伝えることができるコミュニケーションストラテジーとなる。それに対し、否定的評価の場合は間接的に不満・非難を表明するネガティブポライトネスストラテジーとして機能していると結論付けられる。

## 参考文献

池谷知子（2012）「終助詞『っと』『つけ』の機能—『っと』『つけ』で表現される私的領域内情報と目に見えない聞き手—」神戸松蔭女子学院大学紀要 言語科学研究所編



No15,11-25

- 上野田鶴子 (1972) 「終助詞とその周辺」『日本語教育』17,62-77
- 宇佐美まゆみ (1995) 「談話レベルから見た敬語使用—スピーチレベルシフト生起の条件と機能—」『学苑』662号,27-42
- 大島デイヴィッド義和 (2013) 「日本語におけるイントネーション型と終助詞機能の相関について」国際開発研究フォーラム 43,47-63
- 中川祐志・小野晋 (1996) 「日本語の終助詞の機能—「よ」「ね」「な」を中心として—『自然言語処理 4』6,3-18
- 中崎崇 (2002) 「独話場面における終助詞『ヨ』の機能」日本語・日本文化研究 (12) 105-115  
大阪外語大学日本語講座
- 仁田義雄 (1992) 「言表態度の要素としての〈丁寧さ〉」『日本語学』10 (2) 67-75
- (2002) 『新日本語文法選書 3 副詞的表現の諸相』くろしお出版
- 野田尚史 「『ていねいさ』からみた文章・談話の構造」『国語学』194号 102-89
- 福島恵美子 「ビジネス関係者のスピーチレベルシフトの要因について—初対面二者の会話から—」『早稲田日本語研究 17』早稲田大学日本語学会 59-70
- 三牧陽子 (1993) 「談話の展開標識としての待遇レベル・シフト」『大阪教育大学紀要 第1部門 第42巻』第1号 39-51
- (2000) 「丁寧体基調の談話にみる独話的発話・直接引用・心情の直接表出—『働きかけ方式』のポライトネス・ストラテジーとして—」『大阪大学留学生センター研究論集 多文化社会と留学生交流』第4号 37-53
- 山岡政紀 (2008) 『発話機能論』くろしお出版
- 山岡政紀・牧原功・小野正樹 (2010) 『コミュニケーションと配慮表現』明治書院
- Brown, P. & Levinson, S (1987) *Politeness –Some Universals in Language Usage*. Cambridge University Press.
- Maynard, Senko K. (1991) Pragmatics of discourse modality: A case of da and desu/masu forms in Japanese. *Journal of Pragmatics* 15 551-582. North-Holland
- Usami Mayumi (2002) *Discourse Politeness in Japanese Conversation - Some Implications for a Universal Theory of Politeness*. HITUZI SYOBO

#### 用例出典

- マツコの知らない部屋 (TBS テレビ)
- 水曜どうでしょう (北海道テレビ)
- モヤモヤさまぁ〜ず (テレビ東京)

(櫻井和美、創価大学大学院文学研究科国際言語教育専攻修士課程、ksakurai@soka.ac.jp)